

## 令和5年度 第4回 知事広聴「平太さんと語ろう」記録

【日時】令和6年1月 25 日(木)

午後1時～午後2時 30 分

【会場】牧之原市坂部区民センター ホール

### 1 出席者

発言者:牧之原市・吉田町において様々な分野で活躍中の方 4組5名

### 2 発言意見

番号	分野	項目	頁
発言者1-1 発言者1-2	農業(茶業)	茶業の現状と集約化等基盤整備への支援	3 12
発言者2	地域活性化	地域振興から地域創造への発展 ～イベントの失敗・成功を通して得たもの～	4
発言者3	高齢者福祉	居場所づくり活動の紹介と人生の終末期に備えるエンディングノート	10 12
発言者4	スポーツ交流による地域振興	東京オリンピック・パラリンピックから始まった 牧之原市とアメリカの交流関係構築	13
傍聴者1	空港周辺整備	空港隣接整備事業(空港アクセス道路整備)の 継続要望	16
傍聴者2	—	発言者3の発表を聞いての活動意義再確認	18

【川勝知事】皆様こんにちは。川勝平太です。

今日はですね、この「平太さんと語ろう」、平太に聞かせようという、こういう会なんですけれども、かねてよりこちら、牧之原市長さん、そして吉田町長さんの市政並びに町政にですね、本当に素晴らしい仕事をされておられると敬意を持って、常に見ておりました。

これは昨年の秋に計画されておりました、楽しみにしてたんですけれども、台風が来ました。そのために今回に延期になったということでございまして。ようやく実現して、今日は富士山も綺麗ですし、天候に恵まれ、能登地方は今厳しい訳なんですけれども、我々は本当に素晴らしい地域に生を受けて、今、元気にしてるということを感謝したいと思います。ここに来られてとっても喜んでおります。

ともかくこの牧之原はですね、最近注目されておりました。リニアで注目されておりましたが、空港絡みでですね。富士山静岡空港、あれ最近では富士山山梨空港とも言ってるそうです。山梨の人にとってですね、中部横断自動車道ができたために、ずっと降りてきて、そして新東名でこちらの方に来て、金谷から空港に来られるのでですね、新東名は元々前にできてたんですけれども、中部横断自動車道ができたから、富士山空港は山梨県の空港になったと思っられるそうです。それから中部横断自動車道の真南はですね、清水港なんです。清水港は、山梨県の港になったと思っらっしゃるそうです。

それで誠に結構だと。使っていただければ良いと。そして長崎幸太郎という人が知事なんですけれども、あの方がですね、あそこに、空港の下に新幹線が走ってるじゃないかと。あそこになんで駅を作らないんだって、言ったださってるんですね。すごい応援団ができて、皆さん、いずれそういうことになるでしょう。はい。

我々の方はですね、皆様方から、こちらでやってらっしゃる取り組みを聞かせていただければじゃなくて、同時にですね、もし要望があった場合に、それについて聞きっぱなしにしない。必ずきちとした御返事を差し上げると。基本的にここで差し上げるつもりでおりますけれども、できない場合はですね、持ち帰りまして、それを皆様方に回答するってことになっておまして。

ここで聞きしたこと、また知らせるべきこと、県内あるいは県外にもですね、それをするために来ておまして、私のおしゃべりを聞くということではありませんので。今日はですね、この4人の方、それぞれ牧之原からお二人、吉田町からお二人、来ていただいて大変嬉しいです。

最初に、なぜ私がここの市政が素晴らしいかというんですね、例えば発言者4さんですね、これシティプロモーションとおっしゃったでしょう、牧之原はですね、今国際的にやっていますね。

例えば、ついこの間だったでしたかね。これとは別で来た時にですね、ビジネスのチャレンジコンテストをやっておられてですね、新しい、いわゆるスタートアップをですね、やる人をコンテストで表彰して、その人たちがこちらで事業をすとかですね、そういうことを行われてるわけですよ。だからですね、やっぱり富士山を見たりですね、豪快な景色が広がっておりますから、考えることが大きいですね。

それから私は、本当に心から尊敬してるのが、吉田町長です。我々は空港があるからあそこにティーガーデンシティを作ろうということやってたんですけども、駅ができたということだった訳です。まだちょっと時間がありそうだと。

それがですね、さっとそのアイデアをですね、必ずできると。これをティーではなくて、海、シーですね、シーガーデンシティ構想というのをですね、もう15年ぐらい前に作られて、この15年間で見事に、防潮堤を平時には楽しむ所に。吉田公園もございますね。あの辺をずっと整備しながらですね、あそこをガーデンにしまうと。と同時にですね、安全ですからいろいろな企業が出てきております。さらにそれに感心された、こないだ亡くなられた安倍晋三さんがですね、山口県以外の所で、ここにしか私は来たことがなかったと。しかしどうしても来たかったということですね、吉田町長のなさっておられるこのまちづくり、危機管理とそれ以外を同時に作るっていう、それを言いに来られました。その後吉田の美味しいウナギと、食事を楽しんで帰られたと。良い思い出になっておりますが、彼の最後の訪問が吉田町になったと。しかも山口県以外の所で、地方の都市に応援、そういう形で励ましに来るっていうのは自分は初めてだとおっしゃってました。そういう所なんですよ。ですから県内外によく知られている所だということで、私はここの市政、町政ですね、感じ入ってるということを申し上げたいと思います。

それでは今日はその町民の方、また市民の代表の方のお話を伺いますので、皆様方短い時間ですけども、何とぞよろしくお願い申し上げます。

【発言者1-1】こんにちは。牧之原市細江で製茶工場を営んでいます、姉の発言者1-1と、

【発言者1-2】妹の発言者1-2です。

【発言者1-1】4年前から父とともに工場に入り、姉妹で緑茶の製造に取り組んでいます。栽培面積は4ヘクタールで、主に緑茶を製造しています。4年前より、その一部を和紅茶として製造し始め、冬場には干し芋の加工も手がけ始めました。紅茶はインターネットでの直販が主ですが、一昨年、牧之原市で行われました将棋の王位戦にて、藤井聡太王位のおやつに選ばれました「静波しふおんけーき」の「和紅茶しふおん」の原材料として、私たちの作った和紅茶が使われています。新聞にも取り上げていただき、周りからの反響も大きく、とても嬉しい出来事でした。

また、「静岡県ふじのくに山のお茶100選2022」において、私たちの「まきのはら発酵レモンティー」が審査員特別賞を受賞しました。前年も応募したのですが、残念ながら落選してしまい、リベンジとなる挑戦でした。3ヶ月間、てんさい糖に漬け込んだ無農薬レモンと和紅茶を合わせた、優しい甘さと爽やかなレモンの香りが楽しめる商品です。苦味が抑えられたレモンもおいしく食べられるのが特徴です。

そして冬場には芋切り干しを作っています。お茶の価格が低迷し、売上げが伸び悩む中、複合的な作物で売上額を確保しようとの狙いで始めました。手作り、天日干しにこだわった商品で、リピーターのお客様も増え始め、栽培面積も当初の倍以上になりました。

それでも、収穫時期になってもサツマイモが大きくならなかつたり、貯蔵していたサツマイモが高温のためか腐ってしまつたりと失敗も多く、まだまだ勉強中の毎日です。

そして、私たちが今後取り組んでいきたいと思っていることがあります。それは、有機栽培の導入です。自宅周辺の茶畑は、住宅に囲まれており、農薬散布時には大変気を遣っています。住宅地で茶畑を維持していくのは難しいのかと悩んでいた時に、県茶業研究センターの方からのアドバイスをいただき、それらの畑を有機栽培することを勧められました。有機というと、山奥のポツンとした茶畑でやるものと思っている私たちは、目からうろこという思いでした。生産者も、住民の方も納得のいく持続可能な農業として、ぜひ実現したいと思っています。

私たちが茶業を続けていく中で困っていることがいくつかあります。まず、お茶の価格の低迷です。対策として、複合的な作物を作る農家が増えてきましたが、新たな作物を作るためには、一から機械や設備を整えることになり、手間とお金がかかります。加えて、資材や燃料費が高騰しており、農家は今、大変苦しい状況です。

また、高齢化や収入面から、茶畑の耕作をやめる農家が増えてきました。私たちの茶工場でも、昨年で2軒の農家さんがお茶作りをやめてしまいました。耕作放棄地に囲まれている茶畑も多くあり、その風景は寂しくもあり、仕方ないとの諦めの気持ちもあります。

そこで、大規模な基盤整備により、茶畑の集約化・効率化を図り、小さな畑も見捨てない、次の世代に引き継いでいく茶畑作りの後押しを、県の方々にお願いしたいと思います。今でも苦しい状況です。広大な土地の基盤整備をしても、苗代や未収益期間の収入の保証はなく、静岡県独自の支援があれば大変ありがたいと思います。

また、農家の女性に目を向けますと、茶工場の将来を心配し、改善しようとする気持ちは男性と同じようにあるのに、なかなか意見が通らないこともあると思います。そんな時、工場を見据えて資格を取ったり、加工品が作れる道具を買って、茶工場の収入を支えたりできる、自由度の高い補助金制度があれば、もっと農家のお母さんが輝けるのではないのでしょうか。私たちも、商工会を通して県の補助金制度を利用し、自宅でカフェを開業しました。足りない資金を補って、大変助かりました。しかし、ハードルが高いと感じる部分も多く、誰にでも平等な仕組みで、金銭面での負担を考えて諦めることなく、チャレンジしたい女性の背中を押してくれる制度があればありがたいです。お茶を楽しむ女性も多く、生産の現場において、女性の意見を取り入れてもらえる茶業界になってくれればいいなと思います。

最後に、私達は多くの方々に励まされ、今までやって来れました。新茶時期に激励に来てくださった牧之原市長様。牧之原茶の営業マン、お茶振興課の皆様。いつも御指導くださるJAハイナンの皆様。茶業関係者の皆様。御協力くださる志太榛原農林事務所生産振興課の皆様。農業を考える女性の会・アグリレディースの皆様。私たち姉妹を見守ってくださる地域の方々。この先も美しい茶畑の景観を守り、次の世代に渡せるように努力してまいります。今日はどうもありがとうございました。

【発言者2】皆さんこんにちは。吉田町商工会青年部の発言者2です。よろしくお願ひします。

今日はですね、「地域振興から地域創造へ 吉田野営の失敗と成功の歩み」ということで、吉田町商工会青年部が毎年開催しているキャンプイベント「吉田野営」の話をしたと思います。

まず初めにですね、自己紹介をしたいと思います。1981年生まれ、42歳です。2014年、株式会社設立、代表取締役役に就任。2015年、吉田町商工会青年部入部。2016年、第1回吉田野営。2017年、第2回吉田野営。この時に委員長として参加しています。

次にですね、「吉田野営」と言ってもどんなイベントかわからない方も多いと思うのですが、映像を用意したので御覧ください。

ここに映っていますのは、吉田町にある県営吉田公園です。この公園は本当に広いし、なんと言っても芝生がとても綺麗です。そんな綺麗な芝生の上でテントを張ってキャンプをするという、1泊2日のイベントが「吉田野営」です。

土日で開催しているのですが、前日の金曜日に青年部のメンバーだけでこういった看板なども1日かけて作り上げています。キャンプだけじゃなく、いろんなアクティビティも充実したイベントとなっております。

次ですけど、去年の10月に開催した一番直近の「吉田野営」の実績です。御覧のとおり、一般来場者が1万人を超えて、数多くの方に足を運んでもらえるようなイベントになったわけですが、ここまで来るには苦労と失敗の連続でした。

第1回目の「吉田野営」ということで、この時はですね、1回目ということで本当に手探り状態で、出店の数もどのぐらい用意したらいいのかわからず、その時はキャンパーさんや来場者の方にちょっと不便な思いをさせてしまったなあと考えてます。

では、そもそもなぜ「吉田野営」が始まったかという、青年部にはですね、いくつか委員会というものがありまして、2016年にその委員会の中に地域活性化委員会というものがありました。僕もその時のメンバーだったのでですけども、その初めてできた委員会の中で、自分たちに何ができるのかと話し合っていたら、県営吉田公園の芝生の上でキャンプしたいね、じゃあキャンプイベントやろう、イベントをやって人を集めれば、地域の活性に繋がるんじゃないかということで始まったイベントです。

キャンプイベントをやることが決まったのですけれども、イベントをただやればいってわけではないので、なぜやるのか、何のためにやるのか考えようということで、開催趣旨とコンセプトを考えました。

こちらが開催趣旨です。ちょっと読み上げます。「吉田町は、南海トラフ地震の津波の懸念から、沿岸部では人口減少が進んでいるが、小山城や吉田公園など、魅力的な地域資源にあふれている。これらの魅力を再確認し、周辺地域に向けて吉田町の魅力を発信し、町の活気を取り戻す取組を吉田野営により進めていく。」

次はコンセプトです。「吉田町で人と人との出会い、繋がりを作る。そしてこの地域の活性化に繋げる。」

この2つを決めました。これはですね、1回目から今まで変えていません。毎年吉田野営の

実行委員会というものは、メンバーが替わるんですけれども、この開催趣旨、コンセプトは共有事項として引き継いでいます。

失敗談としましてですね、2回目の、自分が委員長だった時の吉田野営ですけれども、1回目の失敗を踏まえて、できるだけ多くの出店者に声掛けをし、飲食を充実させて当日に挑むわけなんですけれども、この時は8月の本当に暑い中での開催ということもあり、来場者も少なく、食べ物を売っている出店者の物が本当に売れませんでした。この時の出店者さんには本当に申し訳ないなという気持ちでいます。この時にですね、情報発信の重要性というものを認識して、ホームページをプロの部員に依頼し、その年からはホームページでの情報発信というものを始めました。

苦労なんですけれども、5回目、2021年の吉田野営です。この時は本当に、コロナ禍ということで本当に大変でした。吉田公園側からは感染対策はどうか、感染者が出たらどうするか、本当にいろいろ言われて。やっぱり公園との交渉といいますか、公園とのやりとりが非常に大変でした。やりとりの中で、吉田公園側と吉田野営側での意見の食い違いだったり、折り合いがつかないことがいろいろありましたけれども、いろいろな方の助言や協力によって、何とか開催することができました。この時、感染対策をしっかり行い開催した実行委員会の皆様には、本当にお疲れ様でしたという気持ちです。

またこれも失敗なんですけれども、第7回、一番直近の吉田野営の時なんですけれども、コロナ禍の時に実現できなかったアクティビティを導入し、具体的なペルソナを設定。アクティビティは、気球であったり、吉田町役場さんと連携して行った防潮堤の上のトゥクトゥクツアーです。その新しいアクティビティを導入して挑んだんですけれども、コロナが落ち着いた影響から、レジャーの多様化、キャンプブームは下火になり、思ったほどキャンパー数が増えず、収支が赤字となってしまいました。しかし、一般来場者が1万人を超え、役場と連携した防潮堤トゥクトゥクツアーも大盛況でした。

次に、これはペルソナ分析ですけれども、これが自分たちが作り出したっていうか、想像して作った、来てもらいたいお客さん像の結果です。

成功と言いますか、繋がったことなんですけれども、シーガーデンの開発ということで、「役場と連携した防潮堤トゥクトゥクツアーの成功が認められ、シーガーデンの開発に関係することに」。これはですね、吉田公園と防潮堤の間に未利用地というものがありまして、この未利用地の開発に関わってみないか、というお話を役場からいただきました。

思いつきや勢いで進めてきた吉田野営だったが、回数を重ねるごとに全員が目的を共有し、同じ方向を向ける体制を整えてきたことや、役場や関係機関との連携の重要性を認識し、さらなる発展のため、連携を深めたことにより、ボランティアで行っていたイベントが開発事業という形で自分たちのビジネスや将来に繋がるように発展したと思います。

このように、吉田野営では失敗と苦労を重ねてきましたが、継続は力なりではないですけれども、目的を変えずに続けていくことにより、吉田野営だけでなく青年部1人1人の成長にも繋がったと思います。そしてコンセプトにも掲げているように、人と人との出会い、繋がりを

作っていった結果、シーガーデン開発のお話もいただけたと思います。

これから先、吉田野営はもっと良いイベントになっていくと思います。僕自身も地域のため、あわよくば自分たちの商売のため、青年部の活動をこれからも頑張っていきたいと思います。以上です。御清聴ありがとうございました。

【川勝知事】どうも、発言者1 姉妹さん。お姉さんの方から(発表されて)、妹さんはお姉さんを立てるんですね。

お父上のね、志を継がれたというのが良いですね。お父さんはですね、本当に頼もしい娘2人を持ったというふうに思われると思います。

それでコンテストに出て1回失敗して、それでチャレンジしようって、今回審査員特別賞を取られたと。このチャレンジ精神ですよ。またやっぱり女性、先ほどのレモンですか、いわゆる紅茶ですね、レモン紅茶っておっしゃったっけ、これがハイカラじゃないですか。これやっぱりお父さんのセンスとは違うと思いますね。

そして先ほどのお芋のあれ、いかにもお茶に合いそうな感じでですね、この辺のところはやはりおしゃれな感じで、おふたりだからしかできないことがあるから。しかし茶園を、茶産業を取り巻くですね、環境は厳しいということをよくご存知で。それを発見されて。お父さんもずっと苦しんで来られたと思いますけれども。静岡県全体でそれに取り組んでるんですが、実は耕作放棄地はですね、1万2千ヘクタールぐらいあるんですよ。それは15年前にそうだった。今もそうなんです。1万2千ヘクタールのうち半分、6千ヘクタールくらいは野生化してですね、あるいは持ち主がわからないとかいうことになって、なかなか大変。実は6千ヘクタールをこの10年間で落としたんです。そしたら6千ヘクタールまた耕作放棄地になって。だから変わらないんですよ。一番多いのがお茶畑。特に山間地の山あいのお茶畑の耕作放棄地がなかなか止まらないと。

そうした中でですね、この有機栽培に気づかれたというのは、これすごく大きいですね。今はお茶を輸出する時にですね、有機かどうかということが判定基準になったりするんですよ。ですからその重要性に気づいて、こんなやり方があったんだって気づかれたのは本当に良かったと思います。これからもそれ、ぜひ、輸出の可能性もありますから、続けてください。

それからいくつかの小さな耕作放棄地をまとめたかどうか。実は同じ考えを持っていて、国の方もそういうですね、中間管理機構というのがあってですね、そこで集めてやるということずっとやってきてるんですが、まだ十分に進んでいないと。私が思うにですね、これは東伊豆で成功した事例なんですけど、10年放棄している所があったんですね。持ち主がわからない。それを中間管理機構に一旦、利用する権限を持たせて、そしてまとめた。こういうふうなですね、もう持ち主がわからない、あるいは放棄されたままやる気がない、という所は、中間管理機構に利用権を付与する措置により、全体の集約化というのは可能だというふうに思いますね。これは、今おふたりが直面されているのは、我々のお茶に関わる同業関係者ですね、皆共有してるものですから。

それから補助金の件ですね。これはできる限りのことはしたいと思いますが、女性に、とおっしゃっておられたでしょう。ですから女性の声をですね、おふたりは発言を競うぐらい、遠慮しない。それが課題ですね。そうすると発言者 1-1、1-2 姉妹になろうという意味で、女性が声を上げる、前に出てくる。男女共同でやるのが一番いいですよ、性差関係なしにやるのがいいです。元々農業は江戸時代からずっと、男も女も関係なく一緒にしてた訳ですから、性差は関係ありません。だから、いわゆる農業組合、JAとかですね、男の方が多くですけど、もっと声を上げた方がいいと思います。それを期待したいと思います。次は発言者 1-2 さんの方にも、御発言を期待したいと思います。ありがとうございました。

それから発言者 2 さん、これ商工会の青年部ですか、商工会がいいですね、あなたのような人がいて。

それで 2016 年から始めたということですが、1 回も欠かしてないじゃないですか。7 回目でしょ。16、17、18、19、20……。

【発言者 2】1 回だけ、コロナで……。

【川勝知事】そうか。コロナでね。だからもう、ほとんど連続して諦めてないと。しかも、発表の中身がですね、失敗、失敗、この失敗、この失敗って言ってるじゃないですか。失敗から学んでいる、そういうチャレンジの精神がですね、この青年部に、吉田野営にあると。良い仲間がいるってことですね。

私はですね、吉田公園っていうのは素晴らしいと思うし、またそこに目を付けたっていうのがいいと思いますよ。それともう一つはですね、シーガーデン構想と結びついたってのがですね、むちゃくちゃ嬉しいです。これは、何て言いますかね、この立地でしかできない、吉田町にしかできない試みだと思うんですよ。

それで、トゥクトゥクツアーですか。これはですね、成功してくださってありがとうございました。防潮堤は平時には、楽しめる所なんですよ、景色もいいですね。ですからそれが成功したっていうので、町役場との関係も良くなって。言ってみれば、これからこれを事業化していけるんじゃないかと言われたと。

それでね、夏にやったら暑かったと。それは確かにそうですね。それから飲食の問題に気付いたと。そして秋にやると、収穫の時だから。そういう季節のことについてもですね、暑くて大変だった、だから今度夏にやるのは考え直そうとかね。これも良い。

それから、あそこの公園。最初にイベントの様子を見ましたけど、ちょっと坂になってる所があるじゃないですか。あれはですね、町長さんがですね、昔からあった丘のように、実はあの高さそれなりにあるんですよ。つまりもし、もしもですよ、仮に津波が来た時に高い所に逃げるっていうのが唯一の方法ですね。そのために作ったわけです。それが実際利用は観客席みたいになるわけですよ。昔からあったみたいに見えるわけですね。それをあなたが利用してたっていうのが良いですよ。



それからあそこの吉田町の公園はですね、いずれ空港ができていろいろな賓客が来られたりするということがあります。ここはスペイン国王・王妃がプライベートジェットで帰られましたからね。スペインの国王・王妃がですね、静岡県の防災を学びたいということで、今の天皇の前の、平成上皇・上皇后陛下が案内される形で静岡県にお越しになって、お帰りになる時にですね、我々は羽田なり成田なりに行かれると思ったんです。そしたらプライベートジェットが、王室公用のジェット機が富士山静岡空港にあると、止まってると言うんですよ。そこから帰られたんです。スペインの大使館の方ですね、一番美しい日本の姿を見て帰ってもらおうと決めたそうです。すごい所なんです。そういう所だからですね、そしてつい最近では、マハティールというですね、マレーシアの元首相が、そこにプライベートジェットで来られました。だからいっぱいいわゆるプライベートジェットが来てるんですけども、そのうちですね、習近平さんも来たいと言ってる。歓迎してあげてください。誰が来ても、来る者は拒まないで。というのは、あそこでもう、上海から最初の東方航空を選んで、飛びたいって自分が最初に来るつもりだったのが、上海の書記から突然中央政府に呼ばれて、最初の便で来れなかったんですね。それでずっと乗りたいと言ってるということを王毅さんという外相から直接聞いております。ですからね、来られる可能性がある。すごいことです。そうするとそういう偉い人が来られるからですね、やっぱり迎賓館がいるんじゃないかと。どこに作るのか。公園に作ったら良いでしょう。周りが公園だから。誰のアイディアだと思います？町長です。

ですからね、平時はキャンプできると。キャンプも今はグランピングと称して豪華なホテルみたいなキャンプもあるそうですね。それを作ってるのが静岡県の「もちひこ」という会社です。日本で第2位の、キャンプ、でっかい体育館から小さなテントまで全部やってる、そういう会社もありまして。ですから、いろんな形で、この野外でできると。しかもあなたが偉いと思うのはですね、このコロナの中で、さすがに一番きつい時はやめたってことですが、心配する声があるにもかかわらず、とおっしゃったでしょ、やったというのが偉い。なぜか。それはですね、コロナで巣ごもりになってるじゃないですか。出たくてしょうがない訳ですよ。その気持ちを叶えて差し上げるということでね、本当に息抜きになったというか、ひと息ついた、そういう機会を提供されたんじゃないですか。成功して良かったと思いますよ。

これからですね、7回やって、あと8回、9回、10回と、回を重ねるにつれてですね、これはもう一種の吉田公園の風物詩みたいになっていくんじゃないかと思えます。やがて、空港ができて、ホテルができたり、いろんなことをすると迎賓館みたいなものがそこにできてですね、賓客がそこで景色と、キャンプを場合によっては楽しむとかね、いうことがあるかもしれませんね。ですからそういう夢を持ってですね、やっていただくのが良いと。

しかも青年部の、いかにもですね、工夫をしながら前向いて、最初は自分たちだけでやったのが、ボランティア的だったのが、今役場とも結びついてきたと。それがもう7回続けると。四捨五入すると10回ですから。だから複数回、二桁目指してですね、継続してやってください。期待したいと思えます。ありがとうございました。

【発言者3】ただいま御紹介いただきました吉田町の発言者3です。よろしくお願いします。

今日は仲間とともに活動していることをちょっと紹介させていただきます。

その前に、僭越ではございますが、我が町の自慢、私の大好きな吉田町の自慢をさせていただきます。

(スライドで写真を上映)まず、小山城が、能満寺山公園の上に展望台のお城があります。吉田野営が行われてる吉田公園もあります。四季折々の花が咲いています。吉田港です。この港から水揚げされるしらすの美味しいこと。生じらす、釜揚げしらす、若干しらす、この3色丼が私のお勧めです。私が大好きな広々とした吉田の田んぼです。この写真にはちょっと富士山が写ってなくて残念なんです、富士山の裾野まで広々として眺められます。四季折々の変化を見せてくれます。黄金色の稲が実ったり、それから、冬にはレタス畑になります。シャキシャキレタスです。梅雨時にはこの田んぼに水が張られるので、空が映って、ウユニ塩湖のような、私は密かに「吉田町のウユニ塩湖」と言っています。吉田町の役場です。我が素敵な展望台でもあります。

私たちの活動している吉田町健康福祉センター愛称「はあとふる」です。ここで研修室を無料で貸していただいているので、大変助かっております。「はあとふる」は、この三角屋根が目印で、いつも綺麗にお掃除されていて気持ちが良いです。

いよいよ1つ目の活動、おしゃべりサロンです。おしゃべりサロンの特徴は、合言葉「ま・た・あ・お・う」です。その活動で、これは「あそぼう」「うんどうしよう」です。高齢者施設の職員の方に来ていただいて、新しいゲームの体験をしました。

その次は「おどろう」「うんどうしよう」です。これは真夏なんです、踊りのグループの方々が真夏にも関わらず、お着物をきちっと着こなして来られて、みんなで会場いっぱいになって盆踊りをしました。

これは「まなぼう」「たべよう」の防災食を作ろうということで、防災袋にお米とワカメと梅干を入れて、防災食を作り、みんなで食べました。こういう、前もっていろんなことを学んでおくと、災害の時に役に立つのではないかなということで、学びました。

おしゃべりサロン・カフェの最高齢者の99歳の方です。お話がとっても上手で、私たちの見本です。

次に2番目のサロンで、手芸を楽しむサロンです。手芸は指先を使うので、脳に良い刺激があると聞きました。手芸サロンの特徴は、1年に1回ぐらい参加者が、会員が講師になる、教える人になるということです。教える側になるっていうことは、とてもいっぱい学びがあります。

これは結婚式の貸衣装をいただいたので、誰でもが着れるように幅を広げています。ドレスの幅を広げて、私でも着れるようにしました。そして、転んでも裾を踏まないようにドレスの裾を上げました。それで、おしゃべりサロン・カフェで、遊び心でモデルさんになっていただいて、サロンでクリスマスパーティーをやって、とても華やかになりました。

仲間の中で蕎麦打ちの名人がいらっしゃるので、そば打ちを体験して、細いの、太いの、い

ろいろできますが、みんなで食べれば美味しいです。

手芸サロンは教える人がいるけれども、隣同士でも教え合って世界に一つの愛しい私だけの手芸作品ができます。

こういう活動をする前に、まず私たちの発端としては、平成 20 年頃、地域では傾聴ブームでした。私たちも平成 26 年頃に傾聴ボランティア養成講座というものを開きまして、そこで学習した仲間で、このサロンを立ち上げて今に至っています。

人は誰でも加齢で年を重ねていきますが、単に年を重ねるだけじゃなくて、美しい「華麗」になるにはどうしたらいいでしょう。ということで、昭和女子大学の総長の坂東眞理子先生がこれからの高齢者は教養と教育が必要だとおっしゃっています。今更ってというような気もあつたんですが、これをひらがなにすると「きょうよう」「きょういく」。さて何でしょう。ということで「今日用がある」「今日行く所がある」っていうことを教えていただきました。

私たちは、静岡県の高齢者の居場所活動推進を理解して、居場所サロンを立ち上げました。そこでボランティア活動は仲間との学び合いであり、自分育てだと思っています。人に役に立つことが、自分の生きがいになって、今日用がある、今日行く所があるってありがたいなと思っています。

ふじのくにの人生区分の 77 歳以降の老年期 100 歳までを、これからどうやって生きていくかっていうことを学ぼうと考えまして、私たちは「エンディングノート」という映画を何回か上映しました。それで、遊学クラブのプログラムですが、これは終末期を考えよう、人は誰でも終末期が来ますが、そういうことをちょっと考えてみようってということで、「もしばな」ゲーム、もしもの時の話をしようという「もしばな」ゲームをやりました。そこでグループワークでお喋りです。私は最後は痛くないようにしてほしいとか、余分な延命治療はしたくないなど、人さまざまな意見を聞いて自分の考えがまとまっていきます。そこで、エンディングノートの事前指示書のページに自分の最後の医療などの希望を書きます。それは自分のためだけでなく、家族のためでもあります。

高齢期の健康維持には、運動と食事が欠かせません。これはマットの上で足の運動から全身の運動をして、栄養のお話、簡単にできるメニューなどを先生に教えていただきました。

これは認知症理解の劇で、高齢者施設の職員の皆さんが来てくれて、わかりやすく認知症を説明していただき、そういう方々に対する対応の仕方を学ばせていただきました。

これは、吉田町には災害時の設備が整った防災公園があります。それのかまどベンチです。普段はベンチで使っていますが、いざ災害という時にはこれをひっくり返してかまどになるという。災害が来ないことを願ってはいますけれども、備えがあると安心です。

これはお寺のお坊さんに来ていただいてお寺の修行体験をしました。法話を聞いたり、写経、お経を写す写経をしたり、椅子に座って座禅をしました。それからお腹から声を出す、お経を唱えるなどをして、一連の体験の後は清々しい気分になりました。

コロナが5類に移行してから、先日、観光バスで大人の遠足、アクティ森へ体験と食の楽しみ、そして帰りには、何よりお買い物の楽しみをして、リフレッシュして帰ってきました。

遊学くらぶの特徴の1つに、貸し本制度というのがあります。大体みんな、私も含めてですが、本は1回読んだらもうあとは積ん読になってしまいますが、それを遊学くらぶに貸していただきます。そして会員の皆でそれを借り合って、1ヶ月間ゆっくり本を読むことができます。

私たち遊学くらぶは、初めての人生の道のりの充実に向けての懐中電灯のような役割じゃないかなと思っています。元気なうちにしておきたいこと、断捨離。家族に面と向かっては言えないけども、感謝の気持ちを書いておこうとか、葬儀のこと、お墓のことなども考えよう。学びたいことがいっぱいです。これからも仲間と共に楽しく学んでいきたいと思います。今日も応援の仲間がたくさん来てくれたり、また関係者の皆様、皆の力をお借りして、これからも楽しく、人生の終盤期を充実したものにしていきたいと思います。

以上、私が仲間とともにやっている活動の発表をさせていただきました。どうもありがとうございました。

【中部地域局長】次が発言者4さんなんですけれども、少し準備をされてるようです。

発言者3さんのお話でエンディングノートということがあったんですけれども、なんて言うか、普通ですと、そこに死を見つめるって非常に辛くて、気が滅入っちゃうような感じがするんですが、でもそうじゃなくて、それをすることによってどっちかっていうと、元気って言いますか、充実して生きていこうとか、そんな思いになるんでしょうかね。

【発言者3】そうですね。誰でも迎えますよね、最後をね。自分で幕を引けないってところが不安な訳ですよ。それを前もって準備しておくとか、いろんな人の話を聞いたりしておく、自分に備えられるかなということを感じています。

私個人的にお棺に入る体験をしました。お棺に入ったら頭の方でお経のテープを流してくれて、とても心地良く、なんかお昼寝したくなっちゃいました。そんなことで、やる前にね、そういう体験をすると人生変わるよって言われたんですが、そうですね、人生変わるっていうか、何かそういう体験したので、次、本当のお棺に入る時もなんか怖くないような。妄想でしょうか。そんな気がしました。

【中部地域局長】もう少しわかりそうですね。

先ほど発言のなかった発言者1-2さん、こちらから少し振らせていただきますと、皆さん御承知だと思うんですが、お姉さんの方は元々お茶インストラクターをされていたんですけども、お茶の方の造詣が深いんですが、妹さんの方は東京で料理人をやられていたということで、こちらで一緒にやり始めて、その腕を活かして、いろんなスイーツとかを作られてるってことなんですけども、最近どんなものを作られているんですか。

【発言者1-2】お芋の栽培も牧之原市は盛んでして、お芋スイーツが流行っていて・・・はい。作っております。

【中部地域局長】ありがとうございます。お茶とお芋ってやっぱり合いますよね。

発言者4さん、よろしいでしょうか。

【発言者4】日本語はあまりよくないんですけども一応トライしてみようと思います。今動画が動かないんですけども、簡単に説明いたします。

最初から紹介いたします。1964年ロサンゼルス生まれ、日系アメリカ人三世です。

元・米国体操選手チームに8年間ぐらい、12歳からアメリカ代表のチャンピオンでした。それから世界大会も出ましたし、88年のオリンピックも出るつもりだったんですけども、怪我しちゃって終わりました。カリフォルニア大学パークレー校の経済学部を卒業しまして、それから30年間、世界の証券会社、ニューヨークのウォールストリートと東京に勤めてました。2018年アメリカオリンピック・パラリンピック協会が私に依頼して、日本代表駐在員を2021年12月から始めました。新しい株式会社を設立しまして、2018年1月です。牧之原市のシティプロモーションアドバイザーに関しては、2023年4月からしています。12月から新しい仕事が始まりまして、アメリカのIT証券会社を始めました。

牧之原市、静岡県と、どうやってそのリレーションシップを始めたのかっていうのは、東京オリンピック・パラリンピックの前に牧之原市が手を挙げて、USAサーフィン協会とホストタウンを設立しました。それがアメリカと牧之原市のリレーションシップの始まりです。その時は、選手たちが牧之原市に来ていただいて、オリンピック前で事前キャンプをやって、牧之原市のおもてなし、あと、人工プールでトレーニングしてすごい楽しかったんです。映像がないんですけども、ゴールドメダルのカリッサ・ムーア選手が日本語でスピーチをして、それが世界に回りました。それが牧之原市とアメリカの交流についての始まりです。

今年(\*昨年の誤り)12月26日から29日まで、牧之原市ジュニアアクションスポーツクラブから14名、ハワイに連れて行きました。カリッサ・ムーア、オリンピックゴールドメダル選手のムーア・アロハ財団と交流のためです。

先月、10歳から15歳の女の子と、ジョン・ウェイン空港、ハワイに行きました。その時は交流しまして、ハワイ州の新聞にも載ったり、米国の方は結構ニュースになりました。その時も牧之原市長と一緒に来ていただいて、ホノルル市長とハワイ州知事と交流もやっていただきました。その時もニュースも出ましたし、これから牧之原市とハワイの交流が始まりました。

一つの自分をお願いしたいことは、これから牧之原市にお家を作るつもりです。その家は、やっぱり静岡空港を使いたい。ですので、これから静岡空港からハワイ経由でロサンゼルスを使いたいし、いろいろこれから静岡のため、ちょっと動きたいと思います。

ホストタウンの交流から始まりましたので、これからそれがずっと繋がるっていう話ですね。あと一つだけ言いたいのですが、インターネットが繋がらなくて、申し訳ないです。

【川勝知事】先ほど吉田町の発言者2さんの話を聞いて感心してたんですけど、いやあ発言

者3さんですね、お話を聞いても、全く言うことないですね。本当にもう感じ入りました。

吉田町ってのはこういう若い青年も、こういう町のお母さんですね、先生ですね。しかも何て言いますか、すごく構想力と、それから人を引き立てる力があってですね、こういう人がいるっていうのは吉田町にとっては宝物じゃないかというふうに思っております。

昭和何年生まれですか。いや壮年期とかおっしゃってたでしょう。ですから同世代ですね。同世代の、団塊の世代のですね、宝物ですね。もうあまり言うことないっていうのもおかしい話ですけども、まずあの地域を愛されてますよね。最初にお城を、シンボルを出されましたけども。

江戸時代といえば、来年ですかね。相良藩の藩主だった田沼意次さんが、渡辺謙さんが役になって出るということで、もうここがいろんな意味で注目されるんじゃないかというふうに思うんですが。

この吉田町のですね、コミュニティが出来上がってるっていうのは発言者2さんとか発言者3さんの話でもよくわかりますけど、実は今日は国際的な話が出ましたけど、牧之原市長さんですね、先ほど発言者1-1さんがおっしゃってましたけども、お茶園にちゃんと来てくださるとかですね。竜巻が来たときにもですね、もう率先して来られて、本当に地域とコミュニティと市長さん、市政がですね、一体になってるっていうのはこの地域の特徴じゃないかというふうに思った次第です。

それからシリアスな話、深刻な話としては、どういうふうにして、最期の時を迎えるかという、この話ですね。エンディングノートというふうに言われましたけれども、元気なうちにお医者様とかいろんな人とお話をしてですね、そして自分はこういうふうにして、最期を迎えたいということをはっきりとノートにしておくということなんですが、それはこの「はあとふる」という所を通してやってらっしゃるでしょう。しかも楽しくやってらっしゃるじゃないですか。深刻でないというのがいいですね、明るいのがいいですね。遠足に行って気分を一新したりですね。

それから99歳の長老のお話を聞くと。実は私が尊敬している92歳の山折哲雄っていう先生がいらっしゃるんですけども、国際日本文化研究センターの所長をされた先生ですが、元々お寺の出の方で、今度ですね、ブツダ、仏様ですね、「ブツダに学ぶ 老いと死」という本を朝日新書からつい1ヶ月ほど前に出されましたけれども、結局彼のエンディングノートなんですよ。本当にやっぱりですね、年をいってからしかわからないことをですね、立派な学者ですから、わかりやすくですね、お書きになって、ストンと落ちるんですね。

そういう山折先生のお話よりもですね、こうして身近に聞く発言者3さんのお話はですね、同世代ということもあるのでですね、こういう人がいるといいなあと。

同じ仲間ですね、発言者3さんがこうしたらどう？これしましょうか、あれしましょうか、手芸というものをやってみるとか、自分でドレスやるとか、ファッションショーみたいなことやってみるとかですね、しかもそこになんていうか工夫があってですね、ときめくような、そういう気持ちを持ちを上手に引き出されたりですね、それからお坊様からお話を聞くとか、写経をすとか。これはもっと知られるように値しますね。本当にすごいと思いましたよ。すごいと思うのが私の

感想です。こういう人がいるってのは、お仲間の人は良かったですね。おそらくたくさんの発言者3さんみたいな方がいらっしやるんでしょう、こちらには。吉田町さすがだと改めて感じ入った次第であります。

それから牧之原はですね、サーフィンで、あそこにスタジアム作られましたね。あれが縁があっておそらく発言者4さんがこっちに来られたんじゃないかと思うんですが。この人、今聞いたら、カリフォルニアバークレー校じゃないですか、これはカリフォルニアの東大ですよ、言ってみれば。ですからですね、むちゃくちゃ頭が良い訳ですね。経済学なさっておられると。そういうところを出て、しかし、文武両道で体操でメダリストになれたと。そういう方と縁ができたのは、言ってみれば自然であると同時に良かったなと思いますね。

そしてああいう天候に左右されないですね、波を起こせる施設をお作りになって、それが実は日本各地で知られるようになりましてね。そしてこちらでオリンピックがあそこで練習するということが縁になって先ほどカリッサさんでしたっけ？カリッサ・ムーアさんに縁ができて。それで今最後に何ておっしゃいましたか。自分はこちらに住みたいんですって。これはですね、言わばカリフォルニアを全部植民地にしたような感じですね。いやちょっと言い過ぎました。もっというとアメリカ合衆国でしょうかね。

それぐらいですね、ここがいいという、一流の運動選手であり、頭脳明晰な方で、こちらと縁があってですね、そして差し当たってできることは、ハワイとの関係だということで、そのハワイに牧之原市長さんも子どもを連れて行って、それで向こうで喜ばれて、ものすごい交流ができた。ハワイは日系人が一番多い所でありまして、豊かに暮らされていると。そして災害もありました。その時の援助をするというような関係がですね、困った時にお互い助け合う。日本人には「義を見てせざるは勇なきなり」というのがありますけれども、私はそういう江戸時代に作り上げられた武士道、そうしたものがですね、この牧之原台地に生きてるんじゃないかと思いますが。

最後に空港を少し整備すればですね、というふうにおっしゃった。今は2500mの空港ですから、あと300m伸ばせばですね、ジャンボが降りられます。2500mだとちょっとですね、例えばインドからでも、200~300人乗りだと着陸はちょっと難しいらしいですね。

ですから、やがて軽くなったり、可能なことも考えられますけれども、ものすごいポテンシャルを持ってる所だと思います。それを今発言者4さんからですね、直接聞かされたのはですね、我々にとっては大きな励みですね。

ですから、全体のまち作りをですね、考えておくといいですね。いずれ必ず駅ができます。これ南アルプスの自然は守らなきゃなりません。そして水も守らなくちゃいけない。水がめが南アルプスですから。その水によって皆我々は今、命つないでいるし、産業もできてるんですね。そしてまたその水によって生きてるたくさんの声なき声を発しているような命を育てている生物もいます。これは国立公園ですから、したがってですね、国策なんですよ、南アルプスの自然を保護することは。それはまたユネスコのエコパークですから、したがってそれを保存するのは国際的公約ですね。ですけれどニアはこれは営利事業ですから、どちらが大事か

てこともあります。そういうものもあってですね、我々はその我々の一番水がめを大事にし、そこに生きてるものを大事にしながらですね、そしてあの、空港がですね、立地がその下に、50m下にですね、空港の50m下の所に、線路が走ってる訳ですね。あれの可能性はですね、今おっしゃったようなことです。ちょっと空港の滑走路を長くするとか、あるいはですね、駅をちゃんと整備できる環境を作り上げていくとか。するとですね、ここは中心になりますよ。

そしてアメリカの秀才がですね、今回のオリンピックをきっかけに何て言いますか、ここに住みたいとまでおっしゃった訳じゃないですか、アメリカの日系三世が。もうすごい良い話じゃないですか。そしてロサンゼルスって今度オリンピックでしょう。今年パリオリンピックで、2028年がロサンゼルス。ロサンゼルスと言えばドジャースです。ドジャースといえば、(大谷)翔平くんですよ。あるいは山本由伸です。そういう所にですね、このオリンピックで日米の橋渡しをやっている発言者4さんがですね、こちらにいらっしゃるといのは、もう現代の田沼意次みたいなもんですよ。あの人は実は悪者と言われるけど違いますよ。もう印旛沼の開削から何かからいろんなことやった訳ですね。ところが偶々浅間山が噴火しちゃったわけですよ。それでも大災害でその区画は全部駄目になって、その後ですね、後を継いだ首相、首相にあたる老中がいろいろ悪口を言っていましたけど、あの方は日本のために、浅間山の大噴火、ああいうものがいつ起こるかわかりませんが、それは静岡県、あるいは日本どこでもそうですよ。それがなければですね、名宰相として今日に伝えられてるに違いありません。

それが今、だんだんわかりつつあります。しかしながら、これは来年のお楽しみにしてですね、そういう地域なんですここは。場の力がすごくありますよ。これが今発揮されてるのが日米の橋渡しになった発言者4さんのお話によってわかったんじゃないかと。映像がなくてもわかったんですからすごいじゃないですか。ありがとうございました。

【傍聴者1】牧之原市坂部ですね、空港対策協議会の代表を務めております、傍聴者1です。川勝知事とは2019年、品格のある邑ということで一度表彰を受けております地域です。よろしく願います。

質問は1つだということですから、なるべく簡潔にしたいと思います。

当・坂部はですね、富士山静岡空港が令和6年6月4日で開港満15年ということで、記念の年に本年はなります。

空港を建設するにあたってですね、昭和62年、榛原・島田が予定地に決定されて、地元は当時大変な騒動になりました。賛成・反対で右往左往したことは私も今でも覚えております。

地元の反対に対する対価として、空港隣接整備事業が当時1市3町、島田市、金谷町、吉田町、榛原町、この3つが締結がされました。それから令和6年でちょうど30年で、令和6年度でこの隣接整備事業が終了します。全ての、今は2市1町ですが、その2市1町のもの全ての整備事業が終了する時点です。

それで1つですね、当時のお約束がいまだに完結されてないのが、当時、空港に行く道路がですね、島田ルート、榛原ルートとこの2つが約束されたんですけども、予算の関係上、



島田ルートのみが開通されて、榛原ルートはいまだもってまだ開通しておりません。当時石川知事にですね、もう一度榛原ルートの見直しをということで、予算を圧縮して、榛原ルートを作るということを踏まえてですね、一応締結されたんですけども、諸般の事情があるんでしょう、県もなかなか事業の進捗状況が遅くて、榛原ルートのみが通っていないということになっております。

これは、隣接整備事業が終わった時点で地元に来られる事業はもちろん、いろんな経済効果が失われていくことにこれから相成ります。飛行場がある限り、飛行機の騒音を地元は受け続けるけども、こういったですね、継続的な補助事業というのはどんどんなくなっていくということですね、ぜひともこの道路整備事業、これは県道になるんですけども、ぜひとも早い開通をお願いしたいのと、ついでにもう1つになりますけども、早期に富士山静岡空港の直下に駅を、新駅を開駅してもらいたい、そのことを切に知事をお願いしたいと思います。よろしくお願いします。

【川勝知事】この間は品格のある邑御受賞おめでとうございました。これはですね、いかに素晴らしいコミュニティかということの証なんです。世界の最も美しい村っていう運動があるんですね。これはフランスで始まりました。それを日本がまねて、日本で最も美しい村っていう運動が日本にもあります。

しかしこれは、日本の「むら」と言ってもいわゆる行政の村ではなくて、コミュニティですね、昔からある。それがですね、日本で最も美しい村っていうのに参加するのも大変だということで、静岡県、ふじのくにの中で、美しく品格のある邑という字は、昔の口書いて、下にこう書く「ゆう」と読む字を使ってるんですけど、これはあの、今 100 以上ですね、集落といいますかコミュニティが認定されてますけど、そのうちの 1 人、その代表ということで。ですからその代表のおっしゃることはですね、ノーとは言えないと。

令和 6 年で一応援助が切れるってことですが、道路の問題はですね、これは中部横断自動車道も長いことかかりましたけれども最終的にできた。あるいは大きな話で言えば、九州のね、九州自動車道もできた結果、七つの異なる県がもう、九州は一つ、いや九州は一つ一つと言っていたのがですね、道路ができ新幹線ができたらずね、誰も九州は一つ一つと言わなくなりましたね。

だから、道路というのは本当に大切に、人の心を、また人を結びつけるものです。ですから時間かかっているようですけども、令和 6 年で切れるであろう。しかしながらですね、まだ新駅についても、正式に決まったわけではありません。これやってかなくちゃいけない。今日は、こちらの中心で動かれました、前の県議の大石哲司氏の御令息の大石健司県議が来ています。ですからこの話は常に県議会でですね、必ず言われてるんですね。ですから、県議全員、また県庁の職員全員が知ってることです。

だからこちらの地域の発展の可能性が、新駅が大きく担うということはもう間違いないと。だけど決まったらどうなりますか。あつという間に地価が上がりますよ。

ですから前もっているんな計画とですね、いずれ必ずできるという信念を持ってですね、どういう計画を作るんだと、先ほどの迎賓館構想なんかもそうですね。あの、こちらの発言者4さんがですね、家を持つにはちゃんと、飛行場の周辺を、駅を作れとおっしゃるじゃないですか。国際的な外圧が来てるわけです。我々は外圧を受けてる訳ですね。こういう外圧は気持ちが良いですよ。ですからこれを励みにして、追い風にしてやっていきたいと思っておりますので。

はい、令和6年でこの30年間のあれは終わりました、そんなことはしませんよ。課題は続いているわけですから。発展のために一緒にやってるわけで。しかもあの、杓子定規にするわけじゃなくて、地元の立派な首長もいらっしゃるし、皆さんのコミュニティの代表もいらっしゃるし、こういうコミュニティを代表されてる素晴らしい方もいらっしゃるわけですからね。しかも中部地域局長は中部地域に住んでるわけですから。こういう人に恵まれてるのでですね、あまり心配しないでください。

やって行くってことで。令和6年で終わるってことはないようにしたいと。ただ私ひとりで決められないので、大石県議よろしくお願いします。県議会ですね、川勝をいじめるのではなくて川勝を励ますようにしていただけたらと思います。よろしくお願いします。ありがとうございました。

【傍聴者2】はじめまして。吉田町の傍聴者2と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

急な御指名で、何をお話して良いか、頭が真っ白なんですけど、私たちの代表の発言者3さんが、詳しく、映像を通したり、上手なおしゃべりの中で、私たちの活動をよく説明してくださいました。そういうことで、私たちもそれに参画しております、とても誇りに思います。ぜひ発言者3さんを支えて、これからも、自分の生き方、そういうものを見つめて、活動していきたいと思えます。以上です。

【川勝知事】傍聴者2さん、ありがとうございました。やっぱりそういう仲間がいらっしゃると思ってきました。そのとおりの方がいらっしゃいまして、ありがとうございました。

(終了)